

【大学間協定留学】留学報告書

記入日	2024年3月30日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2024年3月5日
明治大学卒業予定年月	2026年3月
留学先大学について	
留学先国	オーストリア
留学先大学	クーフシュタインチロール応用科学大学(日本語名) Kufstein Tyrol University of Applied Science(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	ドイツ語 / 英語
留学期間	2023年10月~2024年2月
留学先大学で在籍した学年	2年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬~7 月下旬 2 学期: 9 月中旬~2 月上旬	1 学期: 2 月下旬~7 月 2 学期: 10 月上旬~2 月下旬 3 学期: ~ 4 学期: ~
学生数	2,200 人(現地の学生を含める)
創立年	1997 年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (ユーロ)	日本円	備考
授業料	0	0 円	
宿舍費	400	67000 円	
食費	150	25000 円	
図書費		円	
学用品費	30	5000 円	
携帯・インターネット費	20	3300 円	
現地交通費		0 円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費	50	8000 円	
医療費		円	
保険費	595	100000 円	形態: 海外留学保険
渡航旅費	1480	250000 円	
ビザ申請費		円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計	2225	373572 円	

渡航関連

渡航経路
往路 出発地: 成田空港 目的地: ミュンヘン空港 経由地: アブダビ 復路 出発地: ウィーン空港 目的地: 成田空港 経由地: 台湾
渡航費用
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金: ② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:エティハド航空 料金:140000 円 復路 航空会社:チャイナエアライン 料金:110000 ∴合計:250000 円
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:トリップドットコム) <input type="checkbox"/> その他()
滞在形態関連
1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍等)
<input type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:) <input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2) 部屋の形態
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数合計 4 人)
3) 共有部分
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4) 住居を探した方法:
フェイスブック
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
シェアハウスの同居人が途中から恋人を呼んで一緒に住まわせていた。その人は手続等協力してくれたが、朝から音楽を大音量で流して二人でご飯を作ったり、夜にポルトガル語で喧嘩をしたりと、住みづらくなりました。また、同居人のムスリムの人が深夜にコーランを読みだしていました。このように、これから留学される方は、恋人と宗教に関することはしっかり話し合いをして、自分が許容できる範囲内で生活できるようにするべきだと思います。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

パリに旅行に行った際、英語でもフランス語でもない言語を話す移民らしき人に話しかけられ、すこしコミュニケーションを取った後握手を求められた。握手に応じたら強い力で手を掴まれ、コートのポケットのスマホを取られた。すぐに気づいて追いかけて、力づくで奪い返すことができた。パリで一番大きい駅から徒歩 5 分ぐらいの場所だったので油断していた。旅行に行く際は必ず危険な地域の下調べをして、そこに位置する宿泊施設は利用しないようにしましょう。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

基本は海外でも使える日本のクレジットカードを使用していた。送金もそこにしてもらっていた。たまに現地の銀行口座がないと困る手続きがあったので、口座開設もした。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

スーツケースの重さを測るための機器

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
21 単位		<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:		
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
German Language Group A Beginner Level		初級ドイツ語
科目設置学部・研究科		
履修期間	半年	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 90 分が 1 回	
担当教授	Fuchs Angelika	
授業内容	ドイツ語の基礎的な内容を学ぶ	
試験・課題等	定期的な小テスト	
感想を自由記入	評価基準もそれほど厳しくないの、ちょっとしたドイツ語を学びたい人はぜひ履修すべきだと思います	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Sustainability and Energy Buisness		再生可能エネルギービジネス
科目設置学部・研究科		
履修期間	3 か月	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	集中形式の講義(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 240 分が 1 回	
担当教授	Woyke Wolfgang	
授業内容	ビジネスにおける環境への配慮を学ぶ	
試験・課題等	定期的なグループプレゼンテーション	
感想を自由記入	ヨーロッパの企業の環境に配慮した取り組みが知れる	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
European Financial Markets and Institutions	ヨーロッパ経済市場と機関
科目設置学部・研究科	
履修期間	半年
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Zenevitch Vladimia
授業内容	EUの経済機構について学ぶ
試験・課題等	最終グループプレゼンがある
感想を自由記入	授業スライドはかなりわかりやすくてためになるが、講義自体は先生の訛りが強く、だからと喋るだけだったので、少し退屈だった

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Cross Cultural Management	多文化間マネジメント
科目設置学部・研究科	
履修期間	半年
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に240分が 回
担当教授	Kasner Judith
授業内容	様々な背景を持つ人たちとビジネスの場でどのようにうまくやるのかを学んだ。
試験・課題等	毎回のレポート提出
感想を自由記入	授業は長く、課題も重いので大変だったが、先生の説明はとてもわかりやすく、実践的な内容を学ぶことができ、やりがいのある授業だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Career Skills Lab: Emotional Intelligence in Organisations	組織の中における感情的知性
科目設置学部・研究科	
履修期間	3 か月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	短期集中講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 240 分が 回
担当教授	Meyer Petra
授業内容	人間のパーソナリティについて学び、どのように触れ合えばいいのかを学んだ
試験・課題等	小テストと小レポート
感想を自由記入	課題は楽だったが、講義自体は学問からは少し離れているように感じた。他の生徒と交流する機会が多いのはよかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Leadership: Theory & Practice	リーダーシップ
科目設置学部・研究科	
履修期間	3 か月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	短期集中講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 240 分が 回
担当教授	Romanelli Mark
授業内容	リーダーの種類、リーダーシップの歴史を学んだ
試験・課題等	最終試験
感想を自由記入	試験勉強は大変だったが、再試験でいい点数をとればそれが成績に反映されるのでかなり優しいと思う。授業内容も興味深く、学びを得ることが多かったので、ぜひ取ってほしい授業です。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
The Me Brand	私のブランド
科目設置学部・研究科	
履修期間	半年
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に240分が 回
担当教授	Wollmann Bernd
授業内容	ブランドのマーケティングについて学び、それを生かして自分自身をプレゼンテーションする
試験・課題等	最終プレゼンテーション
感想を自由記入	授業内容は面白く、最後の自分自身を映像やスライド等様々な手法でプレゼンするのは興味深かったが、とても大変でした。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3 年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

m-career

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。) 就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

3 年の春に帰ってくるのであれば大丈夫だと思います。僕の留学先にいた日本人は、就活やゼミにズームで現地時間の深夜に参加していたので、体調を崩すことがあったそうです。就活と留学を同時進行で行う方は、薬等を自分が思っている以上に持って行って体調には細心の注意を払う方がいいかもしれません。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	TOEFL 受験
留学開始年	1月～3月	各種書類準備
	4月～7月	家探し
	8月～9月	
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	帰国
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイス等、自由に記入してください。

まず初めに、ヨーロッパで留学をする際に、ヨーロッパの様々な場所を旅行することを重視している方に、オーストリアで半年間の留学をすることはあまりお勧めできません。オーストリアと日本はビザ査証免除協定を結んでいるため、ビザなしで半年間留学をすることができます。しかし、シェンゲン協定に基づけば、ビザなしで日本人が滞在できるのは 90 日間のみです。つまり、90 日間の滞在の後にオーストリア外に出て、もしパスポートチェックを受ければ検査官に呼び止められる可能性が高いです。ビザ査証免除協定はオーストリアでのみ有効なので、ビザなしで 90 日を超えた滞在をしている状態は、他国の検査官からすれば不法滞在者と同義です。（ほとんどの場合パスポートチェックはありませんが、しかしドイツに入国するときや、僕の場合エストニアからフィンランドに行く船でたまたまチェックを受けました。）また、チェックを受けるかもしれないという不安を抱えて旅行するのは旅行の楽しみを減らすでしょう。そのため、オーストリア以外を旅行するなら 90 日以内に詰める、もしくは1年の留学にしてビザを取得するというのが確実です。90 日以降用にシェンゲンビザをあらかじめ取っておくこともできるのかもしれませんが、僕以外の派遣生の一人は、大使館からそもそもビザを発行できないと言われたそうです。その点は僕も不確かなので、ご自身で大使館に相談してみてください。

僕は、留学をして、その国で努力すれば帰国子女並みの英語力を手にできると思っていました。しかし、現実はそのようなことはありませんでした。その悩みで友達と何度も話し合いをして、最終的に僕が思ったのは、帰国子女のようなアメリカ英語風の流暢な英語だけが正解ではないということです。ヨーロッパでであった英語の流暢な人はたいてい訛りがありましたし、日本人の現地で働いている本職の人にですら、カタカナ英語の発音が少しだけ現れていました。ですので、留学を通して英語を帰国子女のようなレベルまで向上させたいと考えている人には、ゴールは一つではないし、人によって違うということ、そしてネイティブのような流暢な英語にはなれずとも、努力をすれば自分では気づけなくても確実に英語は成長できるということを感じておいてほしいです。

僕の留学先の大学は、アクセスも悪く、スーパーや店が平日でも 20 時には閉まるという住みづらい街にありました。しかし、大学で学んだ内容は、そこそこの深度で幅広い内容を履修でき、他の大学で学べる内容よりも実践的で仕事の場に活かせるものが多かったです。住みづらは否定できませんが、勉強できた内容に関しては満足しています。また、スイスに近い、アルプス山脈の端の方に位置しているために、街の郊外などにみられるヨーロッパの山特有の牧歌的な雰囲気は今でも恋しくなるほど記憶に残っています。確かに他の大学と比べて生徒数も多くなく、アクセスも悪く旅行には行きづらかったですが、穏やかな街の中で、ビジネスについて学びたいという方には、お勧めできる大学です。僕は利用しませんが、buddy program という、留学生一人につき現地の学生一人がアドバイザーのような形であてがわれるシステムがありました。バディの人と二人で出かけることも、他のバディにひとたちと何人かでクリスマスマーケットなどに行くこともあるそうです。そのシステムがあることは、他の大学よりも留学生にとって魅力的だと思います。